

EUROBIKE2008

世界最大の自転車展示会 EUROBIKE2008 は、2008 年 9 月 4 日(木)～7 日(日)の 4 日間に亘り、ドイツ南部のフリードリッヒスハーフェンにて盛大に開催された。主催者発表によるとビジネス関係の来場者数は世界 75 カ国 36,800 人(対前年比 7.4%増)、出展社数は 36 カ国・地域 942 社(同比 3.0%増)となり、出展者・来場者共に更に記録を伸ばした。今年で 17 回目の開催となった同展は、国際的な大規模自転車展として注目度が一層高まり、最終日の一般開放日には 18,000 名のユーザーが駆けつけ、32 カ国 1,430 名(対前年比 11.7%増)の取材陣が訪れた。

- 主 催： メッセ・フリードリッヒスハーフェン有限会社
- 開 催 地： ドイツ・フリードリッヒスハーフェン
- 会 期： 2008 年 9 月 4 日(木)～7 日(日) 4 日間
- 展示会場： 14 ホール(ツェッペリン倉庫含む)及び屋外展示(昨年 13 ホール)
- 展示面積： 97,000 m²—内訳 85,000 m²及び屋外展示 12,000 m²(昨年 88,000 m²)
- 入場者数： ビジネス関係来場者 75 カ国 36,800 人(昨年 75 カ国 34,280 人)
一般来場者 18,000 人(対前年比 4.3%減、昨年 18,800 人)
- 出展社数： 36 カ国・地域 942 社 ※9/29 付リスト集計数(昨年 36 カ国 914 社)



全体に白が目立つ自転車が多いドイツ・ブランド(左; キューブ、右; コラテック)

展示会概要

EUROBIKE には世界各国の自転車メーカーがニューモデル発表の場として全車種を展示し、それを目当てに世界各国からビジネス客が詰め掛けた。ドイツ国内の出展者は、308 社と全体の 3 分の 1 近くを占めているが前年より 5 社減少した。海外出展者では、フランス、イタリア、ベルギー、チェコなどからの出展社増加が目立った。一方、オーストリア、スイスからの出展社は減少した。更に昨年は減少したアメリカや中国、日本は微増となり、台湾はわずかに減少した。しかし、EUROBIKE には参加希望者が殺到しており、全ての出品参加申し込みに対応仕切れず、現在キャンセル待ちの企業も多く新規参加は厳しい状況にある。メッセ施設の収容限界を超えており、今年も会場不足を補う苦肉の策として、隣接するツェッペリ

ン社の倉庫が展示ホールとして利用された。ここはエクストラエナジーの電動自転車試乗コーナーと新興の電動自転車メーカーなどが出展するホールとなっていた。

今年よりメッセ事務局は、ホール A7 を増築し展示ホールを1つ増やした。来年には向かい合うホール B5 も完成予定である。この新ホールに面した入口、駐車場も現在整備中であり、これによりウルム、ラーベンスブルグ方面からのアクセスは改善される。



ホール A7、内部の壁は一部未塗装のまま、外側は依然工事中



シマノの新型デュラエース

派手になるスポーツ車

今年には日本の部品メーカー、シマノがロードレーサー用コンポーネントの最上級モデル「デュラエース」のニューモデルを発表し、併せて電動変速バージョンも出展した。自転車部品のリーディングカンパニーである同社が電動部品に着手したことは、他部品メーカーのみならず、スポーツ車をメインとする完成車メーカーにも多大なる影響を及ぼす新機軸となる可能性もある。

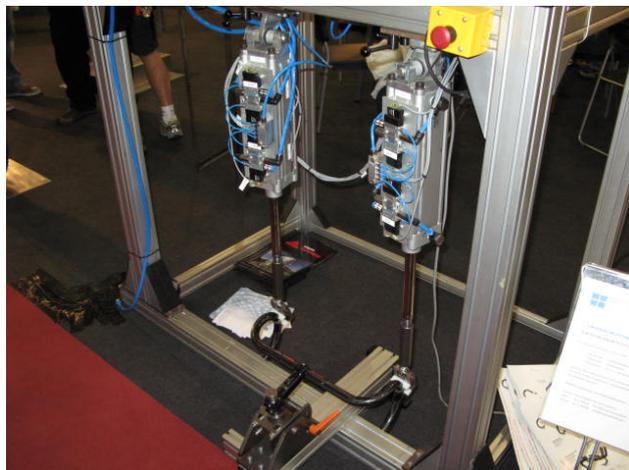
殆どの完成車メーカーでは、最上位モデルはロードレーサー、MTB とともにカーボンフレームであるが、更に上級～中級グレードにまでカーボンフレームは普及している。もはや何処のブースでもカーボン車が見られるようになった今、カーボン素材の品質、強度等について他社と差別化を図る努力に勤める出展社もあった。カットモデルを展示しフレーム断面の特

長を判りやすく表示する、実際にカーボン製部品を試験機に取り付け自社製品の優秀性を強調するなど、PRを行っているブースもいくつか見られた。

また、従来はカーボン繊維生地がはっきりと見えるクリア塗装にロゴを配置するデザインが多かったが、最近では白を主体にした配色が多くなってきている。またブランドロゴも太字で強調され、リムにもロゴが入り、ハンドル、ブレーキ、サドルなどにも白色が取り入れられ、全体的に白色が強調された派手なデザインが増えている。



フレーム試験（ゴースト）



ハンドルの強度をPR（ホール A2 内）



白色主体のデザインは各社へ広がっている（左；タイム、右；エディーメルクス）

新たな方向性の模索

スポーツ車のデザインが各社とも年々華美になる一方、新たな方向性を模索し始めたメーカーも見られた。スペシャライズドでは従来のスポーツ車とは別にクロスバイクやトレーニング車及びシティ車のブランド「GLOBE」を展示した。これらの自転車は、派手なロゴなどは一切無く、色も黒、銀、紺など従来から人気の色でシンプルなデザインである。同社以外でも、主にアルミフレームのクロスバイクやMTBに緑、茶、グレー系統の配色を付した自転車もいくつか出展された。これらの自転車は日常の近距離移動や週末レジャーなどで利用する層を狙ったものとみられる。

また、近年、欧州で販売台数を順調に伸ばしている電動アシスト車については、従来のシティ車タイプの外、小径車や折りたたみ車タイプなども現われ、またバッテリー位置の工夫

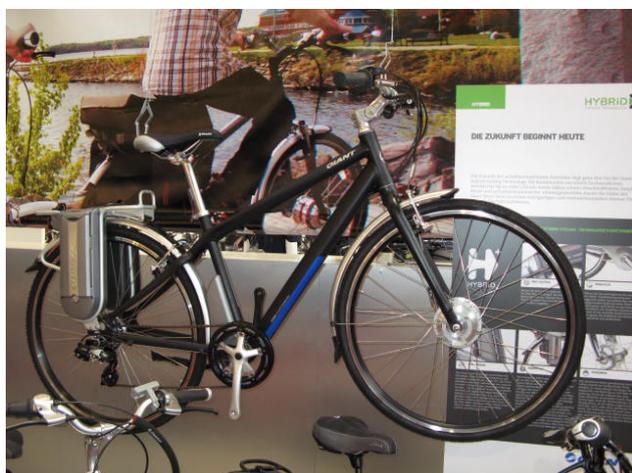
など様々な特徴を打ち出す努力をし、これからの成長に期待する各社の意気込みが伺える。



スペシャライズド「GLOBE」



茶系カラーのMTB（シンプルトン）



スポーツタイプの電動アシスト車（ジャイアント）



R&M の電動アシスト車

JBPI ブース

今回、6回目のEUROBIKE出展となった当ブースは、今年も昨年同様、面積60㎡のB2-204の場所に、(株)スギノテクノ、(株)三ヶ島製作所、ナショナルタイヤ(株)、OGK技研(株)、(株)ユニコ、(有)クロップス及び(株)東芝の計7社が出展した。

ホールB2は、回を重ねる毎にヘルメットやサングラス等のアイウェアメーカーが集中している印象も受けるが、ここを定位置として日本企業の部品が出展していることが参加者に周知され、近年、ハンドル、ペダルやギヤクランク等、日本の高品質部品の欧州市場での需要が再び増している中、当協会共同ブースの役割は、今後ますます高まると思われる。また、今回初参加の東芝は、新型二次電池「SCiB」を出展し、最近、欧州市場で販売好調の電動アシスト自転車用バッテリーとして来場者及び出展社から大いに注目を集めた。電動アシスト自転車の更なる普及をにらみ、電動アシスト車用部品として日本企業のバッテリーやモーターに寄せる欧州企業の関心は急激に高まっている。



共同出展ブース（東芝）



共同出展ブース（スギノ）



共同出展ブース（クロップス）



JBG 頒布の様子（JBPI）

今後の課題

EUROBIKE が拡大を続け世界中から人々が多く集まるほど、宿泊施設不足、交通アクセスの問題は年々悪化している。メッセ付近での渋滞、シャトルバスの運行について利用者の不満が顕在化してきている。また、朝の渋滞解消を狙ったと思われるが、今年から開始時間が1時間遅くなり、午前10時から午後7時に変更された。

次回開催は2009年9月2日(水)～5日(土)の4日間の予定である。

以上

(デュッセルドルフ事務所)

「参考」

別表：EUROBIKE2008 国別出展者数

国名	出展社	国名	出展社
ドイツ	308	イスラエル	2
イタリア	148	セルビアモンテネグロ	1
オランダ	40	モナコ	1
スイス	32	ギリシャ	1
フランス	25	スロベニア	1
英国	22	アンドラ	1
スペイン	17	チュニジア	1
オーストリア	15	米国	28
ベルギー	15	カナダ	5
チェコ	10	オーストラリア	2
デンマーク	6	ニュージーランド	1
スウェーデン	5	台湾	185
ポルトガル	4	中国	26
ノルウェー	3	日本	12
スロバキア	3	パキスタン	5
ハンガリー	3	香港	4
ポーランド	3	タイ	3
フィンランド	2		
サンマリノ	2	合計 36 カ国	942 社

※上記数値はメッセ事務局 9/29 付出展者リストより集計した。